

## 利用者とともに培う図書館力--和光大学附属梅根記念図書館の場合（特集 図書館における仕事の伝承）

著者	和光大学附属梅根記念図書館
雑誌名	図書館雑誌
巻	102
号	7
ページ	444-445
発行年	2008-07
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1073/00001807/">http://id.nii.ac.jp/1073/00001807/</a>

# 利用者とともに培う図書館力

——和光大学附属梅根記念図書館の場合——

## 和光大学附属梅根記念図書館

### 1. はじめに

今回の特集テーマ「図書館における人材育成」にあたって、本学図書館には現在人材育成方針やプログラムのようなものがあるわけでもありませんが、今まで積み重ねてきた経験をもとに、ひとつの事例として報告したいと思います。

### 2. サービスの充実と、職員力を育てる組織作り

和光大学図書館では、創立当初から仕事の仕方、サービスの在り方について“利用者”を起点にして考えることを進めてきました。その中で基本とされたことは、図書館職員全員の力量を高める、サービスの質を向上させる、仕事の内容や組織の変更に柔軟に対応できることでした。これらの考え方のもとで、さまざまな試みを行い組織構成や、役職、人員について考え、組織改革を実施するなど、その時々状況に合わせて、図書館職員全体で取り組んできました。

このような長い経験を経て、現在は2係（情報管理係、情報サービス係）と、4グループ（学部に対応した三つの主題グループ+逐次刊行物グループ）という業務組織となっています。図書館職員はそれぞれ、係と、グループの二つの組織に属しています。係の役割は、その主管する業務の計画・立案・運営を担当し、個々の業務実施は、係を超えたメンバーで行い、特にカウンター業務については、全員のローテーションで実施しています。レファレンスについては全員で対応できることを目指していますが、現在は曜日ごとに担当者を決めて実施しています。

主題グループの役割は、学部教員との連携、担当分野の資料の選書・発注・整理・配架状況把握

等を行います。このほか、事務長のもとで、常設、あるいはその時々課題に対応した委員会や、個別担当グループ等を組織して運営に当たっています。これらの組織は、係や主題グループを越えた横断的な構成になっています。

一人の職員が、係員としての仕事、主題グループメンバーとしての仕事、その他の仕事と幾つもの役割をこなしていくためには、各自の努力はもちろんですが、図書館業務に対する共通の認識の構築やそれぞれの組織が有効に機能できる環境作りが重要となっています。業務組織運営に当たっては、①係、主題グループは、3～5年をめぐにローテーションを行う、②担当業務は、可能な限り複数担当とし、経験者から、未経験者への継承を確保すること、を基本として実施しています。

このような体制で日常業務を行い、経験の交流、継承に努め、新たな課題にも協力体制で取り組んできました。図書館職員メンバーの入れ替わりが少なく、年齢構成も若年層が少ない状況の中で、図書館のシステム化、学部の改組、学生状況の変化に合わせた各種オリエンテーションの充実、データベース、電子ジャーナルの導入などさまざまな変化に全員力で対応しています。業務を通して職員の育成を図り全員の力量を高め、サービスの充実を図ることのできる組織作りとして、一定の成果を得ることができたと考えています。

### 3. オリエンテーション業務にみる職員力の向上

職員力を育てることの成果が今一番あらわれてきているのがオリエンテーション業務です。

初期のプログラムは、入学時大学オリエンテーションにおける館長による図書館利用のすすめ、

学部学科別オリエンテーションにおける図書館紹介と、館内見学がおもなものでした。1992年以降には、OPAC 公開などにより新たに検索講習が必要となってきました。

そこで検索講習を組み込んだ、プロゼミ（新入生の入門期ゼミ）の1時間を利用した新入生オリエンテーション、在学生向けゼミ対象ガイダンス、グループ・個人向け講習会をスタートさせました。スタート当初は担当教員による申し込み制ということもあり、認知度も低く、全プロゼミで実施することはできず、一方職員の体制も、講習スタッフの養成も十分ではありませんでした。その後インターネット、データベースの利用が進む中で、図書館オリエンテーションの認知度も高まり、徐々に講習件数が増加し、均質で、求められる内容に柔軟に対応できるスタッフの養成が急務となってきました。1998年頃は、まだ図書館職員全員が各種講習スタッフとして対応できるまでにはなっていなかったため、研修資料を作成し、経験豊かな職員による模擬講習会の実施、実際の講習にアシスタントとしてかわりながら、講習スタッフのやり方、受講生の状況を把握するなどの研修を実施しました。また、未経験者は、まずプロゼミ講習会の見学を担当、次に講習へ、そして、グループ・個人講習、ゼミ講習会へと段階を踏んで経験を重ねることで、養成を進め、今では全員体制で取り組めるまでになってきています。

特に2006年度からは、オリエンテーションメニューを大幅に増やし、PRの充実、他部署との連携で実施するなど、学内での認知度は高まり、実施件数も大幅に増加してきています。2008年度にはついに、42コマすべての新入生対象のプロゼミ、基礎力ゼミからオリエンテーションの申し込みを受け実施することになりました。

このほか、グループ・個人向け講習においても、“オリエンテーション・バイキングメニュー”（図参照）を用意し、オリエンテーション・ラリーとして積極的に取り組み、着実に成果をあげてきています。5月現在で、ゼミや図書館学関連授業、個人向け講習など合わせて33件の申し込みを受けています。

これらの取り組みとあわせて、新企画メニューの開発、実施プログラムの作成など、情報サービス系の利用教育担当を中心に進めています。

PR面でも、ポスター、チラシはもちろん、学内

# オリエンテーション・バイキング

好きなメニューをお選びください！

\* MENU \*

<Antilread 図書館利用の入門> いずれも所要時間 30 分。

1. 図書館ツアー 30 分。
2. “くさくさく21” plus+ と MY ライブ“garden”の使い方 30 分。
3. 和光の図書館にない資料の探し方(Nacsis: Webcat, NDL-OPAC 中心) 30 分。

<Primo: データベースを使ってみよう！> いずれも所要時間 30 分。


4. 本・雑誌・論文記事の探し方(Genii, Magazinesplus 中心) 30 分。
5. 新聞記事の探し方(簡潔、3545、日経電子コン 21 中心) 30 分。
6. 海外の新聞・雑誌記事の探し方(PicoQuest 中心) 30 分。

<Police: 図書館をいろいろ使ってみよう！>。

7. はじめてのレポートの書き方講座 30 分。
8. レポート・卒論・修論の書き方講座 30 分。
9. 就職活動準備講座～図書館でもできる準備・企業研究～ 30 分。
10. 図書館でもできる！短期語学留学プログラム準備講座 30 分。
11. 図書館員がおすすめコース(相談しながら、あなたにぴったりの MENU を作成)。

※4・7・9のメニューを1時間で行うだけ、日経電子コン 21 だけありたい！  
「レポート準備」7 を特別に、5 を中心に 30 分で行ってほしい！などの希望多数あり！

30 分だから、  
星様みや  
空きコマに  
いいかも！



★オリエンテーション・バイキングに参加すると、図書館オリエンテーション・ラリー用紙にスタンプを押します。☆スタンプを集めた方には、図書館オリジナルグッズをプレゼント。☆有効期限は在学中です。

## ★図書館オリエンテーション・ラリー2008★

図書館オリエンテーションに参加して、学習と学生生活をエンジョイしよう！  
オリエンテーション・バイキングなどに参加すると、下記にスタンプを押します。  
☆スタンプを集めた方には、図書館オリジナルグッズをプレゼント。有効期限は在学中です。

学務番号: _____	氏名: _____
1 図書館ツアー またはくろゼミ	2 くさくさく21の使い方 またはくろゼミ
3 和光の図書館にない資料の探し方 またはくゼミ	
4 本・雑誌・論文記事の探し方 またはくゼミ	5 新聞記事の探し方 またはくゼミ
6 海外の新聞・雑誌記事の探し方 またはポナスタンプ	
7 はじめてのレポートの書き方講座 またはポナスタンプ	8 就職活動準備講座 またはポナスタンプ
	9 図書館員がおすすめコース またはポナスタンプ

★ポナスタンプ……ゼミ・プロゼミ以外の授業で受けた図書館講座、データベース講座に参加（日経電子コン 21 など）、図書館イベント参加（シンポジウムや数本講座、キャラクター賞など）、情報記念章での展示経験、購入希望・相互貸出・文庫貸出利用経験、図書館でのアルバイト経験（対面相談、書架整理、蔵書点検など）。

図書館学行司 和光大学附属梅根記念図書館 TEL: 044-989-7494

インフォメーションテレビ用の PR 番組、ラリー達成記念グッズの作成を行うなど、図書館広報にもつながる力量もアップしてきています。

オリエンテーションの広がりが、利用につながり、2007年度は貸出も近年の減少傾向から脱し利用増となり、昨年度を入れて取り組んだ卒論作成支援講習の成果が論文のための特別貸出増、文献複写依頼増となって表れてきています。

図書館全体のチーム力で取り組み、利用者とともに成長できていると、実感している今日この頃です。

（文責・沢里子：和光大学附属梅根記念図書館）

[NDC9: 010.7 BSH: 1. 研修(図書館員) 2. 大学図書館]